

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772800512		
法人名	医療法人 緑桜会		
事業所名	グループホーム東の広場		
所在地	福島県白河市東釜子字枇杷山66-5		
自己評価作成日	平成23年9月7日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉ネットワーク		
所在地	いわき市錦町大島2		
訪問調査日	平成23年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生まれ育った地元で、一人ひとりに合った生活を提供し、充実した日々がおくれるよう支援します。また、医療法人を母体とし医療・福祉の各サービス事業所との連携を図り、心身機能の維持・向上を図ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人なので緊急時の医療体制が充分に図れることや看取りケアも医療施設に移動することなくなじみの関係のもとで最後まで対応している。ケアの体制としては、寝たきりになっても入浴を楽しむことが出来る施設整備になっている。また、認知症悪化予防に効果があるとされる酸素療法を週3回取り入れていることや認知症のレベルをFASTなど数種類の尺度表を用いて定期的に評価し、その人に見合った対応をする等優れている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に基本理念を掲げ、スタッフがいつでも見れるようにしている。また、定期的に職員で唱和し実践につなげられるよう努めている。	職員がいつでも見れるところに理念を掲示してケアに行き詰った時は、理念を見て振り返り基本に立ち戻ってケアをしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限り実現できる様、取り組み行動している。 月1回のボランティアの協力を得て地域交流として行っている。	自治会に加入して回覧板や自治会の行事に目を通し環境美化作業等に参加している。地域のボランティアサークル(踊り、口笛等)が来訪して利用者との交流を図っている。	陶芸の出来る施設が敷地内にあり、現在は利用者や職員で陶器を焼くが、地域の人と一緒に楽しめるような工夫をしていく考えがある。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、認知症とは、予防とは等、積極的に座談会を開催していたが、現在はその機会が減っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に、運営推進会議を行っており、サービス内容等理解して頂けるよう取り組んでいる。	平成22年12月2日以降開催されていない。管理者の異動と震災があったことで開催の機会を逸している。	早急に開催が望まれ、管理者は開催したいと考えている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度、介護相談員が来られ、情報の共有を行っている。	市から介護相談員が来て、利用者の相談に応じていて、効果としては利用者が職員に話さないことを相談員に話し、その情報をケアの向上に生かしている。市とは頻繁に行き来して協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	支援の中で、危険な部分や細かい所にも目配りし、拘束に至らないよう努めている。また、職員間でも話し合いを持ち、業務にあっている。	危ないからと安易にベッド柵を付けてしまわないよう学習会を通して理解を得られるようにする。生活すべての場面に予測しないことが起こりうると認識し職員の位置を配慮する等拘束をしない対応をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	運営母体で行なっている、身体拘束、リスクマネジメント委員会に入り、学びを深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員も対応できる様勉強している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、同意を得たうえで契約を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中での不満、不安、要望を伺い、その都度対応している。	意見箱を設置しても入れる人は少ないので面会時やケアプランの了解を得る時に意見を聞くように対応している。出された意見は職員全員に周知徹底している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い、意見の場を持っている。	週1回定例会を開催し職員の意見を出し合う場としている。皆が意見を出し合える雰囲気になっていて、出された意見はまず実践してもらい更に検討を加えることにしているほとんどの意見を反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前、就業時間帯の変更の話もあったが、職員の意見を聞き、変更せずに働けるようになっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に定期的に各自参加させている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との合同勉強会等への参加を行い、持ち帰ってきた事を、グループホームに活かせるかその都度検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のみならず、ご家族様にも思い等を伺い、情報を収集し、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時間を十分に持つ他、紹介機関等がある場合は、事前情報を十分に収集する。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時間を十分に持つ他、他サービスの情報も予め把握し、対応できるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	話し合いの場をつくり、今、必要とされている支援の内容を考え一緒に生活を送るよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に生活を送っていく上で、利用者様、ご家族様との関わりを多く持ち、職員の気持ち、行動に余裕を持ち、接する様努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話、談話の中で、昔の思い出、場所の話を取り入れている。	家族や友人の面会は頻繁に行われていて、自宅への外泊もしている。お墓参りに行きたいという希望を支援し実現している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の中に、仲介に入り、少しでも楽しい時間を過ごして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも、ご相談頂けるよう、言葉を添えサービスを終了するとともに、姿勢を示し努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今、何をしたいのか？何を訴えているのか？出来る限り耳を傾け、一番良い方法を考えていく。	センター方式を取り入れて思いや意向を汲み取りその人らしさの発見に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り、これまでの経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活記録、前日までの申し送りを把握するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時には、必ず、ご本人とご家族様に希望や意見を伺う他、モニタリングを参考にし、カンファレンスを実施し作成している。	必ず本人と家族に伺い、本人の趣味や特技が活かせるよう計画に入れている。モニタリングは月1回行い状態の変化に対応する。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をしっかり録る他、全職員が、細かい事も情報提供し活かせる様努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	住宅改修等の環境整備を改めたり、必要に応じ柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティア等の社会資源を活用する機会が多い。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時の対応、利用者様の健康状態をいつでも看護師に連をと、適切な医療が受けられる体制である。	個別に主治医がいるが24hの医療体制を理由に選ぶため内科は法人医師で他科は本人・家族の希望により選んでいる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に(毎日)連携を取り、利用者様の健康管理を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	運営母体が、医療法人であるため、他機関との相談できる関係づくりも整えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には、主治医や管理者が話し合いをしている。利用者様に対して、冷静に対応出来る様心掛けています。	重度化しても入院しないでなじみのホームで最後まで見てほしい希望があるためチームで支援して、場合によっては法人のナースが泊って対応している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等で急変や事故対応を訓練し、実践力を磨いている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を取り入れ、地元の消防署と連携を図っている。	年1回火災訓練をしている。避難場所や消化器の取扱いを確認している。利用者の誘導等シミュレーションし体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、一人ひとりの人格を尊重し対応する様、心掛けている。	信頼関係があるからとはき違えて傷付けるような関わりはしないようその人の性格をよく理解して、尊厳を守ることばかりをしている。職員会議で共有する。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様、一人ひとりに合った声掛け対応し、その都度、説明を行ったり行動が取れるような支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、一人ひとりのその日のペースに合わせ行動が取れる様支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	当日着る洋服を選んでもらったり、出来る限り行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の食材を多く使い、馴染みのある献立を工夫したり、現在は、片付け(茶碗拭き)を手伝って頂いたりしている。	食事のペースを配慮するなど自分の力で楽しく食べる工夫をしている。調理や食事の支度はその人の体調を見ながら調理の参加を促すようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や水分量を記録に残し、全職員が把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯洗浄を実施し、管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が見られても、すぐオムツの着用はせず、余裕を持った排泄誘導等、トイレでの排泄を中心に支援している。	オムツ・リハビリパンツの着用はなるべくしないようにしている。時間を見て自然な形でトイレの誘導をしている。一人に声かけするのではなく皆に聞くよう配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘がちな利用者様には、牛乳、ヨーグルト等を起床時に提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の予定は立てているが、ご本人の希望時はいつでも入浴できるよう支援している。	入浴日は決めているが、本人の希望で毎日入る人や1日置きに入る人もいる。寝たきり状態の人も機械浴で対応し全員の人が入浴を楽しむことができる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れにより、休息して頂く等、行っている。また、日中の関わりにより安心して就寝して頂けるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者様一人ひとりのお薬を把握して、食前・後、服薬して頂いている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	環境が変わっても、趣味等が続けられるよう、支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物等はいつでも出来る様実行している。	本人の希望で買い物やお茶飲みに出向する。普段行けない場所でも本人の希望を把握して花見や芋煮会等の季節の行事で外出の機会をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様のみ、自己管理されているが、その他は、管理者が小遣い帳にて管理している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	どの利用者様での自由だが、実際は、一部の利用者のみ、電話等利用している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で明るい環境づくりに心がけている。また、ホームのウッドデッキ内の花壇には、果樹や草花があり、季節に応じ、ぶどうや梨の収穫を楽しむこともしている。	庭全面がウッドデッキになっていて癒しの空間になっている。季節の花々や果樹が植えてあり車イスの人も自由に出入りし、外の空気や季節の香りを感じられる空間になっている。その他の共用空間も清潔で明るい雰囲気になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ内に設けたベンチは、散歩がてら一人で外を眺め過ごす場所に最適であり、実際そのように使用している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の目線に馴染みの物を置き、安心した生活を送れるよう工夫している。	自分の大切な遺影・位牌・タンス・飾りものを持ち込んで家庭的で安心して心地良く過ごせる空間になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部には、見慣れないものや危険なものは置かないようにしている。		